

振興会だより よしだ

2016年(平成28年)
8月19日発行
第37号
吉田地区振興会



7月16日(土)午後5時から恒例の第33回一心祭りが吉田運動公園に於いて約5,000人(主催者発表)の観客を迎え盛大に開催されました。
毎年雨に悩まされるこの一心祭りも、今年は会員皆さんの熱意が「天」まで届いたのか、祭りが終わるまでは雨の心配は有りませんでした。



広場いっぱいの観客

ステージでは、踊りや民舞・ダンス・バンド演奏など13団体が日頃の練習の成果を披露され、更には安芸ひろしま武将隊・琉球國祭り太鼓広島支部の皆さんも駆けつけて頂き、祭りを一層盛り上げていただきました。



吉田地区振興会が担当の毛利元就隊の入場

また飲み食い広場では、今年吉田地区振興会はうどんが担当で、16名のスタッフが暑い中700食余りを販売しました。最後まで祭りを盛り上げていただいた実行委員の皆さん、そしてステージ発表の皆さん、誠に有難うございました。

一心祭りのバザーに参加して

市有常友住宅 黒光 正子

天気が怪しくて心配したけど、雨も降らず過ごし易い天気で安心しました。

メンバーはみんなベテランで、7kgの青ねぎをトントンとリズムカルに切っていました。私はこんな量の青ねぎを切るのは人生初めてで、切った大きさもバラバラで少し悔しい思いをしました。そして、うどんの販売も暑くて大変でしたが、みんな協力してやり遂げました。

こうした行事は大好きで他にも関わっていますが、人と人とのつながりをもつということは楽しいです。これが「一期一会」って言うんですかね。

短い時間でしたが、夏の思い出がひとつ出来ました。スタッフの皆さんには色々ご迷惑をかけたと思いますが、私には充実した一日で「有難うございました。」の一言しか言えませんが感謝の気持ちでいっぱいです。うどんが完売した後は主人と祭りの会場を周り、素晴らしい花火を観て帰りました。皆さん有難うございました。

第12回歴史探訪

鳥取城跡と古き街並み
倉敷めぐり

6月5日(日)小雨まじりのなか、80名の参加により、大型バス2台に分乗、鳥取・倉吉方向に向かう。雨の中のなかを走行するが、鳥取城跡に到着する頃には晴天となり、久松山の新緑がまぶしく映えていた。参加者から「晴おんながおるんじやろう」の声に納得。

〈鳥取城跡・仁風閣を歩く〉

国史跡指定・鳥取城跡の見学は、地元ガイドさんの案内により、二手に別れて正面玄関の大手登城路より始める。城内唯一の切石積石垣の説明、天球丸から三ノ丸、二ノ丸への移動は汗ばむ程であった。栄枯盛衰を物語る城門の巨大な切石には無数のノミの跡、石工や農民たちの悲哀の歴史が刻まれている。

秀吉軍二万の包囲網に四千人の城兵(半数が農民)は籠城四カ月、糧道を断たれ飢餓地獄に陥

り、人肉を喰い合う有り様となる。ここに至って、吉川経家は城兵の助命を条件に自害により降伏したという。「戦の実相」とは、かくも非情で無惨、汚辱に満ちたものである。非戦の誓いこそ、豊かな社会の創生であることを学び、城跡にて黙礼をする。

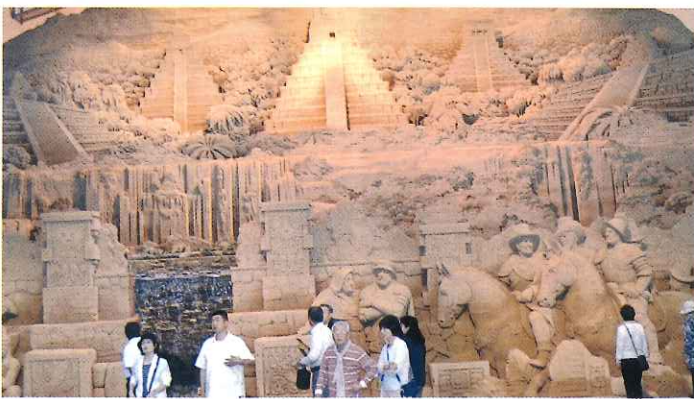


鳥取城の説明に聞き入る参加者

〈鳥取砂丘・砂の美術館〉

鳥取砂丘は約五万五千年前に大噴火した大山の火山灰が堆積したもので、晴天の砂丘列は日本海を背景に雄大な姿を横たえて見事。

砂と水だけで作る砂像の美術館では、南米の歴史をテーマにした彫刻群が展示されている。三階まで、古代から現代に至る歴史を圧倒的なスケールで制作・展示され、観る者に衝撃と感動を与える。



伝説の黄金郷エルドラドの砂の彫刻群

〈倉吉市・土蔵群のまち〉

南北朝時代からの城下町、陣屋町としての歴史をもつ赤瓦の街並みを懐かしみながら、ゆつくり散策する。醤油醸造場や造り酒屋など老舗の家並みを抜けると、玉川沿いに白壁土蔵群が建ち並び、一枚石の反り橋が旅人を招き入れる。古道具を並べた出窓を覗く人、小魚の群れる水面に映える白壁の表情をカメラに収める人、それぞれのひとときを楽しむ。穏やかな日中に恵まれ、無事帰路に着くことが出来ました。企画した役員一同安堵しております。ご協力ありがとうございました。

(担当 文化教育部)



倉吉・白壁土蔵群(一枚石橋)

各地区のブロック長と行政区委員が決まりました

振興会の諸行事や、広報等の配布などいろいろお世話になります。よろしくお願ひします。

ブ ッ ク	行政区名	氏 名		ブ ッ ク	行政区名	氏 名	
1	左円1	*下土居元明	柘植 雅子	12	市有常友住宅1	*渡里 鈴子	
	左円2	本田 信之	大田真奈美		市有常友住宅2	寺本 仁	
2	三矢タウン	*前岡 琢也	森重小百合	13	二丁目	*山本 敏文	田坂 富子
3	市有郡山住宅1.2	*青中 佑介			三丁目	岸野 拓雄	馬場 文子
	市有郡山住宅3	大野 竜二			川向1	横山 訓三	山根 瑞枝
4	上迫1	岩見 文彦	朝原美津枝		川向2	国司 正文	埜 清子
	上迫2	*吉田 信子	渡辺みゆき	川 手	原 勇夫	吉岡真知子	
5	六日市1	渡辺 信行	宮崎るり子	14	四丁目上	宮本 宣幸	倉本 真美
	六日市2	国光 義秋	河野 武子		四丁目中	*三宅七生治	吉野理恵子
	六日市3	*和田富美子	菊浦 悟		四丁目下	原田 勇治	大植 悦子
6	大賀屋1・2	*芦田 大典		15	五丁目上	朝胡 美彦	岩崎 克律
7	新町上	塚本 文子	小田 明子		五丁目中	仲前 克則	住山 澄子
	新町中	*桑本 順子	新川 裕之		五丁目下	朝胡 恵美子	小都 幹夫
	新町下	今田 鮎美	清水 修治		高 樋	坂本 益祥	奥本 照子
8	西土手上	*山中 敏生	津山カツ子		古 市	小松 浩子	
	西土手下	寺本 文照	佐々木一二三	柿 原	水本 保		
9	太郎丸上	*西川 春幸	久岡 りえ	高 樋	原田 崇		
	太郎丸下	坂本 衛	友好真由美		*田島 鉄男		
10	一丁目	*平原 克己	相川 辰子	16	大 浜	*下川 正喜	岸田 里子
	吉田病院			17	内 堀	春日 信次	山本 典子
	浄安寺東	佐々木公人	木和面恵美子		外 堀	*竹本 宣子	上本 昭二
11	浄安寺西	*福本 憲司			四軒屋	米下 悦子	
	青迫1	青中 祥子		18	柳 原	*村崎 強	
	青迫2	砂田 昌利		19	上・下国司	*岡本 郁雄	高東 一敏
	青迫3	青藤 達也				吉田 進	渡里 克枝

追伸～氏名の前に*印の付いた方は、ブロック長です。

役員体制

願ひします。	*役員 の空席も有りますが、任期が今年度末なので現体制のまま取り組んでいきます。ご理解の程よろしくお願ひします。	監 査 津賀山とし子 監 査 吉田信子	会 計 相川辰子 事務局長 隅田克良 女性部副部長 小田明子 女性部副部長 花岡礼子	文化教育部長 未定 体育部長(兼) 隅田克良 産業観光部長 佐々木公人 (兼)水重克幸	環境福祉部長 総務部長(兼) 今田基良 副会長 空席 副会長 今田基良 会 長 水重克幸
--------	---	------------------------	---	--	--

伝統つむぐ市入り祭

二丁目・新町振興会(年番組)恒例の5月5日(木・祝)に市入り大祭が盛大に開催された。前日の4日は強風が吹き荒れ、翌日の6日は雨に見舞われたが、当日5日の子どもの日にはこれ以上はない晴天に恵まれた。

これも偏に清神社大神様のご加護のお蔭であり、市入り祭が盛況のうちに開催され多くの観衆楽しい一日を過ごすことができた。



だんじり屋台 千歳山での子ども歌舞伎

主役は吉田中学2年生9名が演じた千歳山・八雲山のだんじり屋台の「子ども歌舞伎」で、出演の9名は約3週間の特訓を乗り越え、晴れ舞台に臨んだ。演技が決まる度に沿道からは惜しめない拍手が送られていた。恐らく生涯忘れられない経験となったであろう。

また神輿の行列は、この4月に入学したばかりのあどけない男女数十名の中学1年生で編成され、町内各所のお旅所でお菓子を受取り、楽しくはしゃぎながら商店街を巡り歩いていた。



中学1年生による神輿の行列

そしてT.P会恒例の「飲み食い広場」商工会青年部の「ゲームコーナー」、更には新鮮野菜市場、お茶席、フリーマーケット、特産品販売コーナーに加え、武者との記念撮影会等の催しが集客アップに貢献した。



振興会から応援に駆け付けた皆さん

高齢化が進み人手不足から、だんじり屋台の引き手と交通整理に今年も吉田地区振興会から多数の方々のお助けを頂きました。

お陰様で市入り祭も無事終了することができました。有難く心よりお礼を申し上げます。

編集後記

今年の吉田地区のバザーはうどん販売が当番で、700食余りを販売した。煮えたぎる湯の中に麺を入れて打つが、とにかく暑い。しかし、完売した時には「ヨッシャー、やったデー」と、スタッフ一同歓喜である。

そんなうどん打ちに辛苦している最中に、50歳前後と思われる大きな女性が「元気にやっとなるね。」と、大きな声をかけてくれた。「見てのとおり元気なよ。あんたはー。」と、言葉を返したものの「はてさて、今のは誰だったかいの。」うどんの受け渡しの所でお客様同士の、お客様とスタッフとの久しぶりの再会の会話がいく度もいく度も交わされる。一心祭りはこのように「まちづくり」の手段として大きな役割を果たしている。

今年も、祭りのスタッフは暑い中にも関わらず「準備く本番く片付け」と大変だが、「まちづくり」の為に大きな「力と汗と知恵」を出して頂いた。

今田 基良